

桜蔭俳話会 十二月句会 (第三五一回)
平成二十八年十二月十八日(日)

母の咳ベッドの軋む音しきり 邦子
鑑賞 母の咳をベッドの軋みで表現したのは上手い。「音」は不要。「隣室のベッドの軋み母の咳」とすることもできる。

白亜紀もジュラ紀も遠し冬木の芽 明美
鑑賞 確かに意表をついた句ではある。「も」の二回使いは避けたい。現代に存在する「ジュラ紀」を詠んで欲しい。

米櫃に米なき夜の根雪かな 明美
添削 米櫃に米のなかりし根雪かな

山道を走る阿闍梨の息白し 眞壽
鑑賞 千日回峰の荒行と息白しとの組み合わせが良い。「夜の道廻る阿闍梨や息白し」とすることもできる。

岩肌に彫られし仏山眠る 友子
鑑賞 厳しい冬の岩肌に在る「仏」と、それを包み込むように春を待つ「山眠る」との配合が良い。「岩肌に在す仏や山眠る」とすることもできる。

短日やあぐらの中に猫二匹 幸
鑑賞 「猫二匹」の選択が絶妙である。ゆったり感が出ている。

暖炉やさし庭に薪積むレストラン 友子
添削 暖炉燃ゆ庭に薪積むレストラン
白息や少年は背になにもかも 朋子
鑑賞 俳句の妙は省略にある。少年が背負う

ものについて読者に考える余地を与える。

免疫のたちまち下がり風邪六日 明美
鑑賞 いわゆる風邪が免疫系の疾患であるかどうか知らないが、妙に説得性のある俳句である。

ひと筆のふみあたたかし十二月 朋子
鑑賞 春の季語「暖か」は物理的な冷暖を指すものであり、心理的な暖かさを指すものではない。本句の「あたたかし」もそうである。

目標の歩数まだまだ息白し 友子
鑑賞 運動は目標を決めて、初めて運動たり得るのであろう。

バス降りて人の散りゆく息白し 邦子
鑑賞 普通の情景であるが、俳句はただ気負って大上段に作れば良いというものではない。

手際よき母想ひつつ年用意 友子
添削 手際よき母の影ちらり年用意

息白し空手の突きのかたち美し 明美
添削 白息や空手の突きのみしき形(なり)

登校のみだれる列や息白し ツル子
添削 登校の列の乱れや息白し
帰り道大根を買ふ山ガール ヤエ子
添削 大根の山へ寄り道山ガール
カラオケの終りし耳にならひ吹く かおる

鑑賞 暖房の効いた部屋でカラオケを楽しんでいただけに、北風が身に沁みる。

父の忌や夢に出で立つ雪の朝
添削 夢に立つ父のひと言朝の雪
かおる

灯油売りの音近くして路地小春 ツル子
添削 灯油売りの音遠ざかる路地小春

静かなり雪かきせむと眠られず
添削 雪掻きの刻計りある寝床かな
かおる

まもなく上映 膝掛を ご自由に 朋子
添削 ・・・上映のまもなく「膝掛けご自由に」

編集の耳に懸けらるペン冴ゆる 明美
添削 編集の耳の赤ペン冴えにけり

オリオン座 定年のなき主婦の力 幸
添削 定年のなかりし主婦やオリオン座

先生の子らの半袖山眠る 朋子
添削 引率の教師半袖山眠る

悠然と回る風車や年の暮 ヤエ子
添削 歳晩の街見下ろして 観覧車

ランドセル小走りの子等 息白し 直子
添削 息白し小走りの子のランドセル

木の葉降るテーブル増すやテラス席 朋子
添削 枯葉降るテーブル増えしテラス席

情念の想ひ届かぬ 浜千鳥 眞壽
添削 人想ふこころの波や 浜千鳥

日記果つ五十年の悲喜はるかなり 幸
添削 五十年の悲喜のあれこれ 日記果つ

荷の重き小学生の息白し かおる
添削 肩の荷の重き小六息白し

冬の蚊の一撃後の何もなし ツル子
添削 冬の蚊へ一撃あとは何もなし

友と出で夕べに急ぐ十二月 ツル子
添削 旧友と遊びて帰る十二月

アメリカの落日 近し 冬紅葉 眞壽
鑑賞 時事性は強いが、落日と冬紅葉の取り

賭け事は今年限りと年の暮 眞壽
添削 賭けること 最後と思ふ年の暮

合わせは良い。来年は、「冬紅葉アメリカの日はまた昇る」、となるのかどうか。

電飾は幻の世や冬ざるる 友子
添削 LEDの虚飾の世界冬ざるる

住所録に死去と書き込む年の暮 ヤエ子
添削 年の暮 享年添へし住所録

年末は飲み放題で締めくくる 直子
添削 飲み放題喋り放題 年忘

初霜や逸り立つ君 転倒か
直子

静けさや赤子の泣き声 冬の夜 邦子
添削 透きとほる赤子の声や 冬の星

添削 逸り立つ君の転倒霜の花

白い息父娘の散歩笑い声
添削息白し散歩の父の笑ひ声
幸い。

小春日の公園で合ふ秋田犬 直子
添削小春日の公園跳ねし秋田犬
○新年食事会と一月句会
(食事会)一月二十九日(日)十二時三十分
から二俣川駅ライフ四階の「仕立屋」で行い
ます。

冬めくや空室ビラのくすみあり かおる
添削空室のビラのくすみや冬ざるる
(句会)新年食事会終了後、一時から、五階
の旭区民文化センター(サンハート)で行い
ます。

枯桜の幹の威圧に触れてみむ
兼題は、「日脚伸ば」です。

添削桜木の枯れし大幹触れてみん
○二月の句会は休みです。

山里に光る聖樹や旅更けし ツル子
添削山里の光りの聖樹旅半ば
○三月句会

三月二十六日(日)午後一時から、旭区民
文化センター(サンハート)にて。

隣国は長い竹串おでんかな 直子
添削隣国のおでんの串やいと長し

黄昏や塊の如くに枇杷の花 眞壽
添削黄昏の屋根一塊の枇杷の花

干支年賀ぬいぐるみ服のまわし撮り 幸
添削かこみ撮る干支の賀状の縫ひぐるみ

パチンコ店着ぶくれの列おろかなり
ヤエ子

添削着ぶくれてパチンコの列乱しけり
(文責 代表増田守 不在投句
古野明美、松浦かおる)

「事務局からお知らせ」

○第一二四回通信句会作品募集

冬・新年の季語を用いた三句。締切りは
二月四日(土)。同封の葉書でお送りくださ